

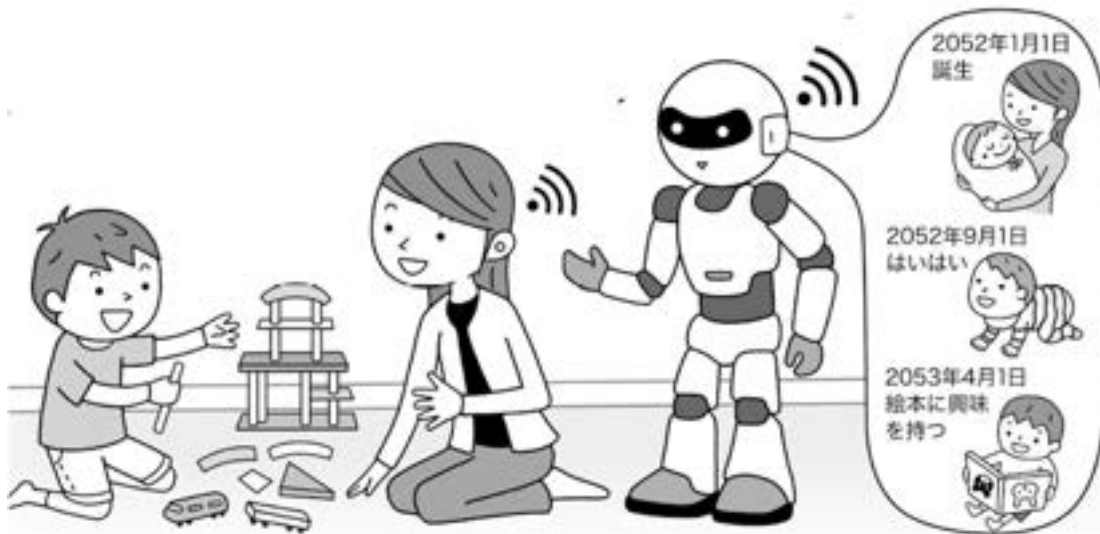
親子相互交流療法を活用した 親子のウェルビーイング実現技術

研究代表者：新妻実保子（中央大学）

主たる共同研究者：加藤正晴（同志社大学赤ちゃん学研究センター）

加藤俊一（中央大学）

実現したい未来社会構想と課題



出典：牧敦「心にひびくデザイン」

人の一生に寄り添い個性を理解して
人間関係を支援する知能

- 多様な個人の心身が満たされ、いきいきとした幸福な状態をウェルビーイングと定義し、これを実現する科学技術を生み出すこと
- 社会情動的能力を育むことで個と集団のウェルビーイングを向上させる
- 個人を理解してよりよい人間関係を動的に支援する

最終的には「個人の人生に寄り添いながら個性を理解し、社会的能力を育み、コミュニケーションを円滑化する知能」を実現する。



- 1) 個人の心身や取り巻く環境の状態を把握する知能
- 2) 状態を把握して適切に対人関係に介入する知能
- 3) 個人や社会の歴史や情勢に配慮する知能

技術的課題と法的・制度的課題

個性を理解して人間関係を支援するモデル

• 親子相互交流療法 (PCIT : Parent-Child Interaction Therapy)

The diagram illustrates two models of PCIT. The top model, '対面式PCIT' (Face-to-face PCIT), shows a '観察室' (Observation room) where a 'コーチ' (Coach) wearing a headset provides 'ライブコーチング' (Live coaching) to a parent. A 'マジックミラー' (Magic mirror) allows the coach to observe the parent-child interaction. The bottom model, 'インターネット PCIT' (Internet PCIT), shows a 'プレイルーム' (Play room) where a parent and child interact. A 'マジックミラー' (Magic mirror) and an 'イヤフォン' (Earphone) are used for observation and coaching. Labels '親' (Parent) and 'こども' (Child) identify the participants.

観察室
コーチが親に対して
イヤホンを介し
ライブコーチングを
行う

マジック
ミラー

コーチ

対面式PCIT

マジック
ミラー

イヤフォン

親

こども

プレイルーム
親が子どもに
プレイセラピーを行う

インターネット
PCIT

Toshiko Kamo Japan PCIT Training Center

親子
全体として最適な関係

- ✓ 親子が一緒 に行う (1対1)
- ✓ アセスメント 重視
- ✓ エビデンス による裏付けがある
- ✓ 汎化 の応用例がある
きょうだいの行動改善
幼稚園の教室に波及

探索研究での取り組み

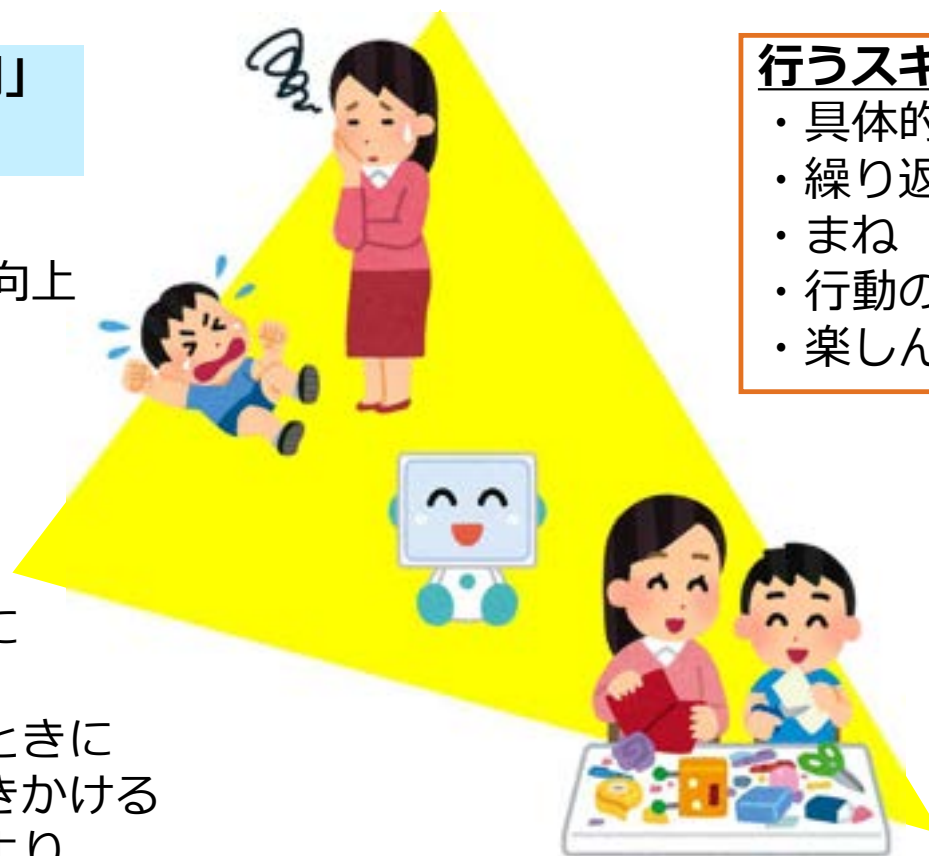
ICT&ロボット技術を導入し、
PCITの手法を活用して親子のウェルビーイングを実現する方策を探索する

子ども主導の遊び「特別な時間」とライブコーチング

- ✓ 信頼関係の構築
- ✓ コミュニケーションの質の向上
- ✓ ポジティブな強化が重要

技術的方策

- 親子のインタラクション時に親に適切な気づきを与える
- 親子の遊びが促進しにくいときにロボットが親子にそっと働きかける
- ロボットにより働きかけにより親子への社会的報酬を強化する



行うスキル

- 具体的賞賛
- 繰り返し
- まね
- 行動の説明
- 楽しんで

避けるスキル

- 命令
- 質問
- 批判

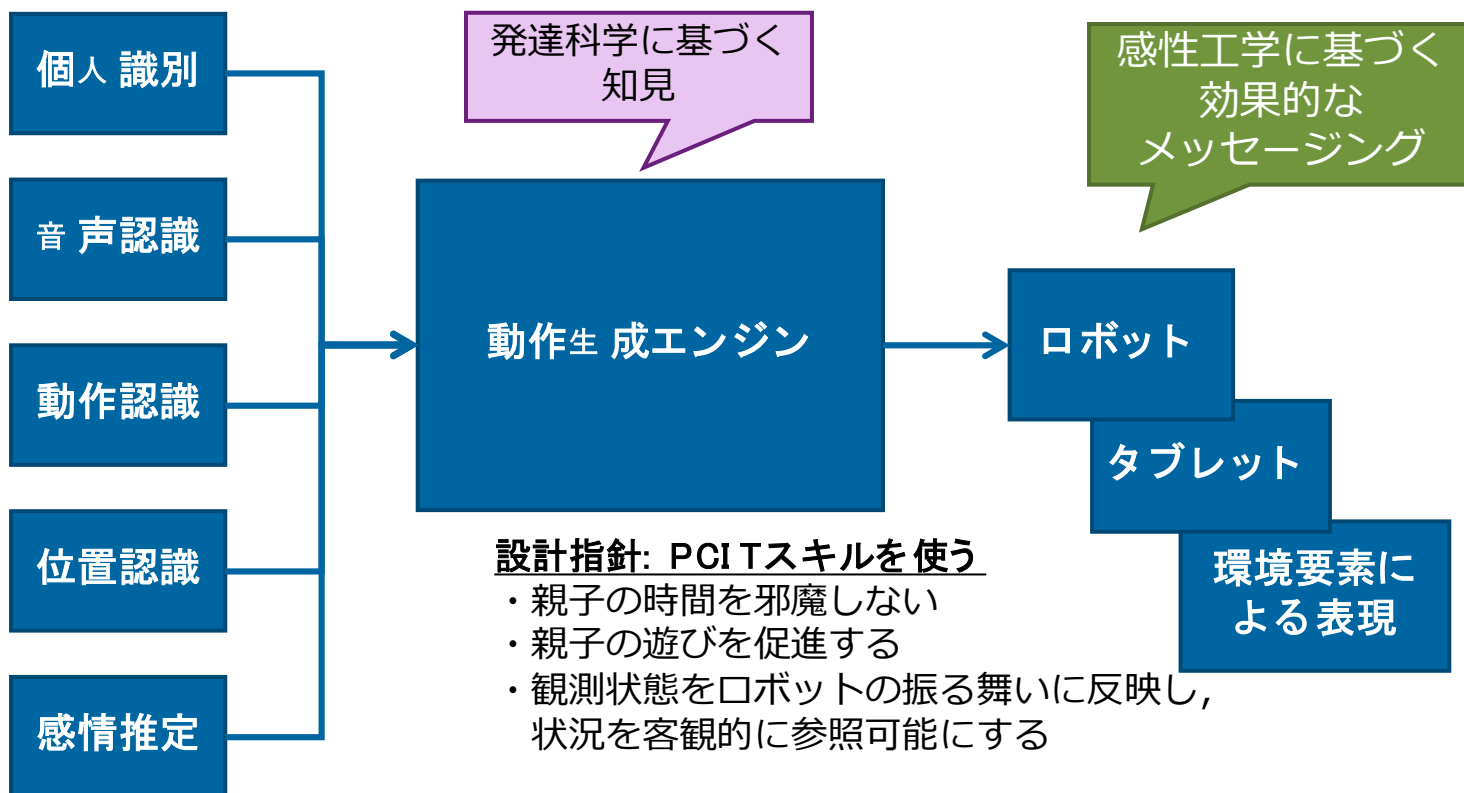
子どもの不適切行動への対応

- 選択的社会的注目（無視のスキル+反対の良い行動）で対応する

信頼とスキルの獲得

コア技術 & 協力・連携への期待

センシングシステムとロボット要素を統合した自律的支援システムの構築



➤ 協力&連携の必要性

- ✓ センシング/IoTデバイス
- ✓ 様々な認識技術
 - 個人識別
 - 感情
 - 子どもの手の動き, etc...

➤ 協力&連携への期待

- ✓ 様々なロボットの活用
 - ロボットのハードに依存しないシステム構成
- ✓ DXの具体的応用事例として
- ✓ ウェルビーイングへの効果検証